

講座 ころの友伝道入門シリーズ ⑦

## 三つの基本 その二

# 「福音宣教は牧師と信徒のチームワークによる相互の補い合う働きです。」



日本フォースクエア福音教団  
糸満サイトチャペル  
(沖縄)  
ひがもとふさ  
牧師 **比嘉幹房**

今から約40年前に沖縄でも総動員伝道が叫ばれましたが、その説明として、絵で紹介されたのは、舟に、牧師と信徒が共に乗っている、しかし舟を漕いでいるのは牧師一人だけ、信徒は傍観者として描かれている。これが長い間の日本の伝道であった。そのような反省から、信徒が牧師と共に総動員で、福音を伝えて行こうとし、まず四国で始まり、沖縄そして日本各地で広がって行った経緯がある。

ころの友伝道は牧師と信徒が互いにパートナーとなり、祈りと協力によるチームワーク伝道を基本の一つにするものである。いろいろな伝道の方策があるが、結局のところ、牧師と信徒が互いの協力の下でなされる伝道こそその宣教の実をより結ぶものであり、相互に補い合い、助け合うときに、この働きは前進する。日本の福音宣教が遅々として進まないのは、その一つは信仰の継承がしっかりとされていないゆえではないかと言われる。

ある教会の調査によると、洗礼を受けて2年半でその受洗者は教会を離れて行く。それではザルで水を汲むような伝道だと。その原因を思うに、一人一人の信徒はしっかりと信仰に立って教会生活を励んでいるけれども、

信仰の喜びを自分一人だけで他の人々に分け合っていないのではないか。それを別の言葉で言えば他の人とつながっていないことになると。(ピリピ3:4)

ころの友伝道は牧師と信徒そして求道者とのつながりの中で働く伝道である。

今私たちの社会はつながりの少ない人々が孤立し、孤独の中に生きている。「世界一孤独な日本のオジサン」岡本純子著（角川新書）の中で“世界一孤独な国民、それは日本人だと。孤独はもはや国民病として多くの人の心身を蝕んでいる。肥満より大気汚染より、環境ホルモンより、食品添加物より、お酒より健康を蝕み、寿命を縮めている”とある。

私たちはこのような社会にあって、心、体、魂の病んでいる人々に、主の助けを仰ぎつつ、ころの友となって、つながりを保ち、牧師と信徒がチームワークを組んで、一人の友を大事に主のもとに導いて行く。それが私たちに託された福音宣教の使命達成に有効な伝道方法だと信じつつ実践していきたいものである。

